



苦小牧工高
関東六華会

会報

2008.4.
第5号

発行責任者 川上 毅
編集 嘉夫 弘
青木 藤 時
木谷 藤 時
藤田 時 治

特ダネ 情報!

我が苦工生から

参議院当選する。



加賀谷 健
(電気科三十七年卒)

関東六華会の皆さんこんにちは。加賀谷です。昨年の参議院選挙で、千葉県選挙区で当選し、現在参議院一年生です。選挙では同窓生の皆さんの大きな励ましもありました。改めて感謝申し上げます。一二八日もわたった臨時国会がおわり、すぐに通常国会が始まり、現在(二月)平成二十年度予算、道路特定財源等を巡って、与野党が激しい攻防を行なっています。例年より、寒い冬、灯油を含め、消費者物価が高騰しているこの冬、道路特定財源問題は、国民にとって大変大事な問題とされています。特に北海道のように、灯油がまさに生活必需品であるところは、本当に切実です。与野党の攻防も、参議院選挙で、与野党逆転したという事実が大変大きく、解散・総選挙で政治の構図が変わらない限り、厳しい局面は変わらないと思いますが、新人議員としても大変働きがいがある状況であり、一生懸命頑張りたいと思います。苦小牧も、大変厳しい寒さが続いているようです。近年、暖冬

でできなかったと聞いてました、錦大沼公園でも一月下旬から約二カ月間、無料でワカサギ釣りを楽しめたようです。また、新聞のスポーツ欄を見てもみすと、我が苦工が、インターハイのアイスホッケーに出場したようで、頑張つてほしいものです。決勝は、三年連続、駒大苦小牧と苦小牧東だったようですが、苦工も来年は決勝に進出し、母校の名を、全国に轟かしてほしいと思います。

私も、昭和三十七年に卒業し、北海道を出て、東京電力に就職して、もはや四十五年になります。地元での就職も考えたのですが、思い切つて道外に出て、自分を試したいと考え、東京電力を受験、幸運にも入社できました。そして労働運動に飛び込み、思いがけず国会議員になりました。

若い時の思い切りと現在が、つながっていることに不思議な感じをもちます。母や兄弟は今でも苦小牧におり、当選後も墓参りで帰省しました。今後は母校を訪問する機会も作り、同期生、同窓生の皆さんと、旧友を温めたいと思います。今の校舎は昭和五十八年に現在地に移転されたそうで、私が私の在校時は、木造校舎でもっと町中に

あり、また、私の学んだ電気科は勿論男性ばかりの「男臭い」クラスでした。新しい校舎で、あたらしく苦工の雰囲気を感じながら、懐かしい話に花を咲かせたいと思う今日この頃です。

この会報が皆様に届く頃には新たな動きがあります。今後の加賀谷 健さんの活躍を願っております。
(事務局)



青春の原点「苦工」

藤田 時 治

(電気科四十五年卒)

依田勉三は「風吹けば吹け、波立たば立て」と、想像を絶する環境の中で、未開の十勝地方を開拓。私の生家はその十勝の中でも相当奥深い新得市宇佐幌(サホロ)である。祖父の代から森林、大地を開墾して農業を営んでいた。幼少の頃は、吉幾三の歌ではないが「テレビもねえ、ラジオもねえ」そのもので、電気が通っていないかった。自給自足のランプ生活が当たり前であった。

かろうじて小学校(佐幌小学校、後に廃校)では、電気が通っていたので、白黒テレビ一台を全員で興味深く見ていた。友達がゲルマニウムラジオを聴いているのを見て、何も知らない自分は、針金を立てイヤホンをして

つなげば音が聞こえるものと思ってやってみたが、結局何も聞こえなかった。「ラジオを聴くにはどうしたらよいか」と、町の本屋さんへ通い始めた。私の夢は、このときに醸成されたのかも知れない。

中学時代は自分でラジオを自作できるほどになった。将来は東京でエレクトロニクスの仕事に就こうと進学を志す。当時は高校なんてあまり行っていないかった時勢であった。今、苦工関東同窓会(関東六華会)の幹事役をやらせて頂いているが、私より一〇年、二〇年以上の諸先輩方々とお話する度に凄い人たちのだと思つている。

北海道で電子科のある高校を探し選んだのが苦工だった。しかし、当時プラスバンドに入っていたので勉強はしていなかった。成績は中の下。志望校を決めてから、一年間、腹を決め、基礎から猛勉強の日々となった。成績は期末でベスト三に入る。そして合格通知をもらつて号泣。農村の何処にでもいるような奴でも、「夢、情熱、硬く誓う決意」があれば実現出来ると、自分を開拓することの意義を実感することが出来た。

苦小牧では、生活費、授業料、下宿代込みで一万二千円の仕送りをもらい下宿。入学式を終えて教室に戻った瞬間、電子科二年生が竹刀をもって机をビシビシ叩きながら乱入。一瞬殺気立った空間に。全員机の上に正座させられ苦工伝統の精神を叩き込まれる。学校を間違えたのか。しかし、何かが起きるぞと期待も芽生えた。三年間の唯一の思い出は、音楽部(トランペット)で活動していた事に尽きる。コンクールで全道大会に進出し函館へ行けた事、野球、

ホッケーの試合を楽しみながら楽器で応援出来た事、慰問で道内を回った事。この時の先輩である工化四三年卒の佐藤先輩(トロンボーン)とは、たまたま、現在関東六華会の幹事を一緒にしている。当時は「いぶんしこかれた覚えがある。また部活をよくサボっていた先輩だったがイベントには必ず帳尻を合わせて参加していた。」

下宿の近所に、夜の繁華街クラブで生演奏をやっているバンドマスターがいた。クラブで一緒にやってみないかと誘われた。練習なしでいきなり本番ステージとなった。終了後の打ち上げで、パーカウンターでジンをオーダー。すると「ストリートですか？」と何遍も確認されたが都度「ジーン」と返答。実は、洋酒はジンライムしか飲んだことがなかった。「ライム」の言葉が出てこなくて「ジーン」と言ってしまったのである。青臭くて飲めやしない代物であった。飲み切ったところでバンドマスターは驚いてしまいそれっきり一緒にステージに誘われることはなかった。

しかし、何よりも嬉しかったのは、年一度の市民会館での定期演奏会であった。他の女子高生をとにかく沢山会場に呼んであったので、声を掛けられたリファンレターが下宿に沢山来た。幾人かとお付き合い出来た事は、都会に出て初めての新鮮な体験であった。総じてこの三年間は、自身を随分練磨出来たと思う。

あれから年月が過ぎ、五十四歳で早期退職し今迄どうしてもやれなかった事が一つ残っていた。それは、「車の免許」も取得して分かったが、余暇の視野が広がった。

お詫び！

記載スペースが狭く、苦工卒業後のサラリーマン生活部分をカットさせて頂きましたのでご了承下さい。(事務局)

二〇〇七年度の苦工同窓会

関東六華会の総会は五月十九日(土)の午後三時から新宿駅西口のワイズで開催された。

本部からは岩本同窓会会長の参加を頂き、ご来賓で苫小牧東京事務所の新松本副所長、が同席され、諸先輩の物故者のご冥福を全員で黙祷してから総会が開始されました。

機械科二十四年卒の増田忠雄氏の乾杯で楽しい語らいや恒例のカラオケ等の時間を過ぎた。参加者は例年より少し減少しましたがトップ記載の加賀谷 健さんからも挨拶があった。時間がたつのも早く、盛会のうちに次年の開催を約束して閉会となった。



得意の一曲！ 苦工同窓会岩本会長



左から増田機械29卒 斉藤土木32卒 門田電子45卒 川上会長 松本苫小牧副所長



後列左 馬淵 電気39卒
前列左 武田 土木36卒

後列右 藤田 電子45卒
前列 早坂 土木35卒

2007.5.19. 関東六華会総会スナッフ 苦工同窓会 岩本会長

「ご案内とご注意」

総会は五月度に開催です！

二〇〇八年度の関東六華会の総会は五月十七日(土)に開催、会場が変更になりましたのでご注意下さい。詳細は別紙をご参照下さい。

😊 会員情報たより

同窓会のご案内で各位から頂いた情報をお知らせするコーナーですが別紙記載致しましたのでご覧下さい。

編集後記

昨年を振り返ると不一家消費期限に始まり、今度は食品偽装が相次ぎ、苫小牧が一躍放映のミートホープ事件発生、震度六強の中越沖、能登半島沖の恐怖、大臣のナント力還元水、バンソウコウ大臣やら安倍首相の辞任、まだ続く社保庁の年金ズサン管理に火が付き、参議院では自民惨敗で道路特定財源の見直し、防衛省の収賄容疑、農薬餃子事件、護衛艦事故等に加えて諸物価高騰でますます生活の安全・安心がとろろと溶けてしまつて心が落ち着く生活は？せめてささやかな春爛漫の季節に気をまぎらわさずにはられない。